

急拡大するブラジルの家電市場

～ 2007 年の家電売上高は 1214 億リアルに～

2006年12月12日（火）

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～ 要 旨 ～

近年、ブラジルの家電市場が急拡大している。ブラジルの業界団体（Abinee）の統計によると、家電産業の売上高は98年の374億リアルから2005年には928億リアルへと、7年間で2.5倍の規模に膨らんだ。Abineeでは、2006年の売上高が1057億リアル（前年比＋13.9％）、2007年が1214億リアル（同＋14.9％）に達すると予測している。

セグメント別に家電の売上高をみると、最近ではコンピュータや通信の分野で売上高の伸びが著しい。たとえば、コンピュータ部門の売上高は、2005年に前年比＋18.5％の244.4億リアルを記録した。また、通信部門の売上高は2005年に前年比＋26.5％の164.5億リアルとなった。コンピュータと通信の売上高は、2006年も高い伸びになることが予測されている。2005年におけるブラジルのパソコン普及率は10.52％、携帯電話普及率は46.25％にとどまっており、中長期的にみてもコンピュータや通信市場の拡大余地は大きい。

国内向けだけではなく、メルコスール（南米南部共同体市場）向けを中心に、輸出も好調だ。2005年の家電の輸出金額は前年比＋45.3％の77.7億ドルを記録した。とくに輸出のウエイトで20％を占めるアルゼンチン向けが好調で、2005年は前年比＋62.2％の高い伸びとなった。Abineeは、2006年の輸出金額が92.0億ドル、2007年が100.0億ドルに達すると予測する。

ただブラジルの周辺国の間では、国内雇用の確保という観点から、ブラジルの家電製品が南米市場を席巻することを危惧する声が高まりつつある。たとえば、ブラジル製の白物家電が毎年大量に流入するアルゼンチンは、2004年からブラジルに対して輸出の自主規制を求めている。2006年6月に輸出の自主規制は期限切れとなったが、アルゼンチン側はブラジルに対してなお輸出の自主規制継続を求めている。

業績が好調に推移するなか、ブラジルの家電業界では、新規に雇用を増やそうという動きが広がっている。ブラジルの家電産業では、98年から2003年までは雇用調整が続いていたが、2004年以降は人材不足から徐々に増員する傾向にある。2005年の雇用者数は前年比＋0.2％の13.3万人となった。06年の雇用者数は14.3万人、07年は15.3万人となる見通しだ。

ブラジルの家電市場の拡大を受けて、外国メーカーも積極的にブラジルに進出している。ブラジルでは、2006年6月、日本と同一の地上デジタル放送の規格が採用されることが決まった。このため、テレビなど日本の家電メーカーの間では、ブラジル市場に対する期待が高まっている。

(好調に推移するブラジルの国内家電販売)

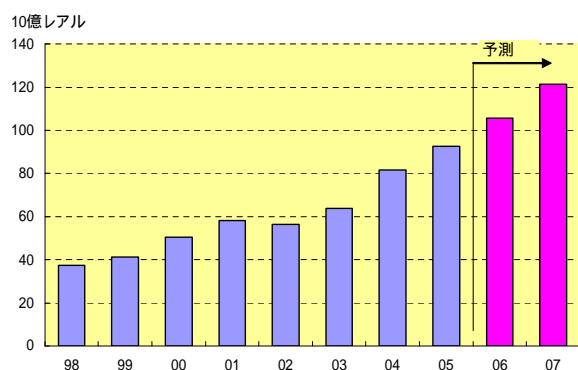
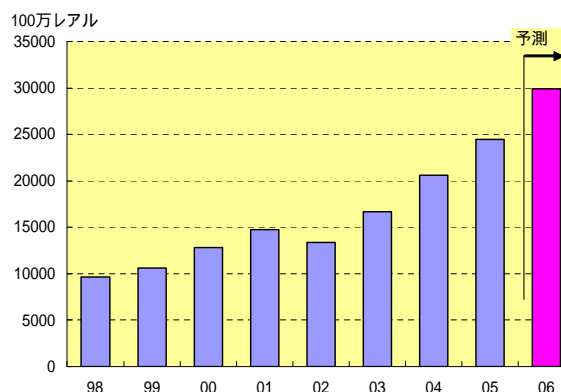
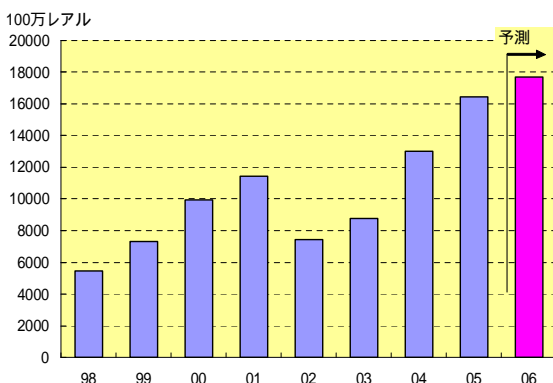
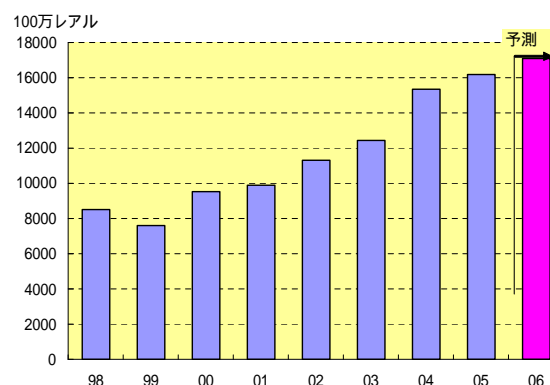
近年、ブラジルの家電市場が急拡大している。

ブラジルの業界団体 (Abinee) の統計によると、家電産業の売上高は98年の374億レアルから2005年には928億レアルへと、7年間で2.5倍の規模に膨らんだ (図表 1)。Abineeでは、2006年の売上高が1057億レアル (前年比 + 13.9%)、2007年が1214億レアル (同 + 14.9%) に達すると予測している。

セグメント別に家電の売上高をみると、最近ではコンピュータや通信の分野で売上高の伸びが著しい。たとえば、コンピュータ部門の売上高は、2005年に前年比 + 18.5% の244.4億レアルを記録した (図表 2)。また、通信部門の売上高は2005年に前年比 + 26.5% の164.5億レアルとなった (図表 3)。コンピュータと通信の売上高は、2006年も高い伸びになることが予測されている。

2005年におけるブラジルのパソコン普及率は10.52%、携帯電話普及率は46.25%にとどまっており、中長期的にみてもコンピュータや通信市場の拡大余地は大きい。

さらに、ブラジル国内で貧困層が減少し、広く中産階級が台頭してきたことから、冷蔵庫、洗濯機、掃除機、電子レンジ、電気炊飯器、ルームエアコン、電気かみそりといったいわゆる白物家電の需要も拡大傾向にある。白物家電の売上高は、2005年に前年比 + 5.5% の161.8億レアルとなった。2006年も前年比 + 5.5% の伸びが期待されている (図表 4)。

図表 1 ブラジルの家電売上高**図表 2 コンピュータ部門売上高****図表 3 通信部門売上高****図表 4 白物家電部門売上高**

(出所) Abinee資料より作成、予測はAbinee

(アルゼンチンとの間で貿易摩擦も)

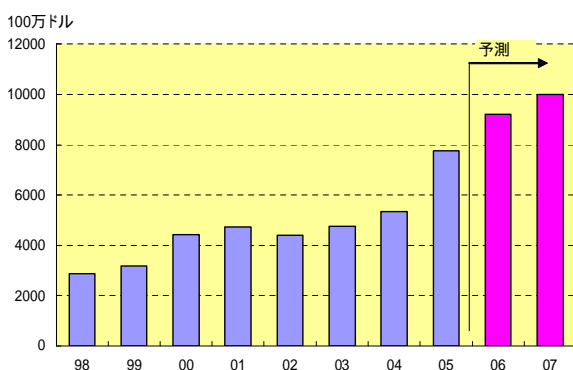
国内向けだけではない。メルコスール（南米南部共同体市場）向けを中心に、輸出も好調だ。2005年の家電の輸出金額は前年比+45.3%の77.7億ドルを記録した（図表5）。とくに輸出のウエイトで20%を占めるアルゼンチン向けが好調で、2005年は前年比+62.2%の高い伸びとなった。Abineeは、2006年の輸出金額が92.0億ドル、2007年が100.0億ドルに達すると予測する。

ただブラジルの周辺国の間では、国内雇用の確保という観点から、ブラジルの家電製品が南米市場を席巻することを危惧する声が高まりつつある。たとえば、ブラジル製の白物家電が毎年大量に流入するアルゼンチンは、2004年からブラジルに対して輸出の自主規制を求めている。2006年6月に輸出の自主規制は期限切れとなったが、アルゼンチン側はブラジルに対してなお輸出の自主規制継続を求めている。

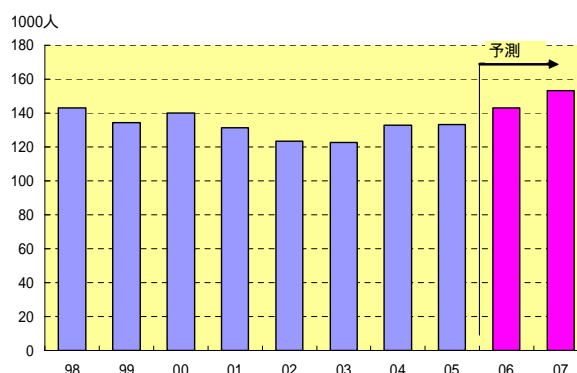
業績が好調に推移するなか、ブラジルの家電業界では、新規に雇用を増やそうという動きが広がっている。ブラジルの家電産業では、98年から2003年までは雇用調整が続いていたが、2004年以降は人材不足から徐々に増員する傾向にある（図表6）。2005年の雇用者数は前年比+0.2%の13.3万人となった。06年の雇用者数は14.3万人、07年は15.3万人となる見通しだ。

ブラジルの家電市場の拡大を受けて、外国メーカーも積極的にブラジルに進出している。ブラジルでは、2006年6月、日本と同一の地上デジタル放送の規格が採用されることが決まった。このため、テレビなど日本の家電メーカーの間では、ブラジル市場に対する期待が高まっている。たとえば、デジタル家電用ソフトのゼンテック・テクノロジー・ジャパンはブラジルの家電大手グラジエンテ社と共同してデジタル・テレビを開発する予定だ。

図表5 ブラジルの家電輸出金額



図表6 家電業界の雇用者数



(出所) Abinee資料より作成、予測はAbinee